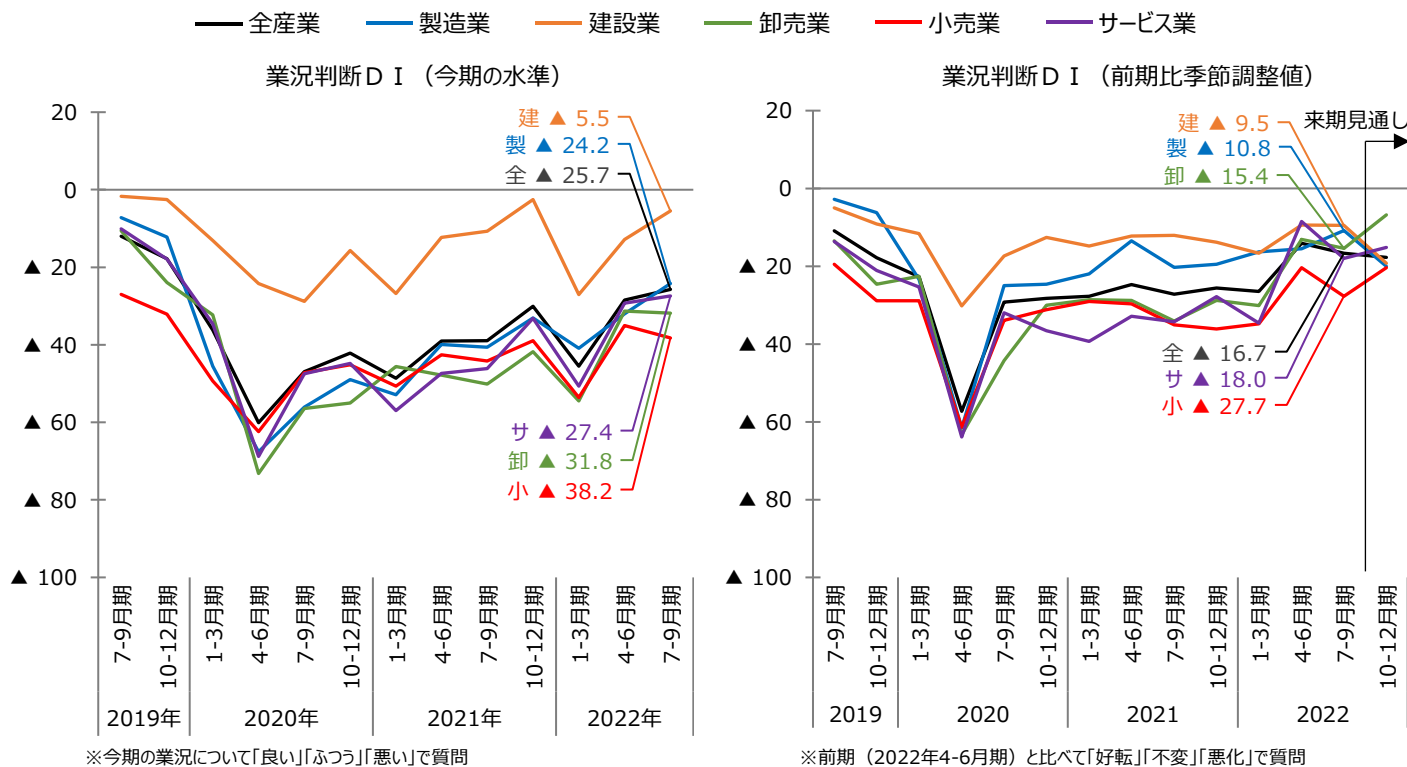


第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 北海道



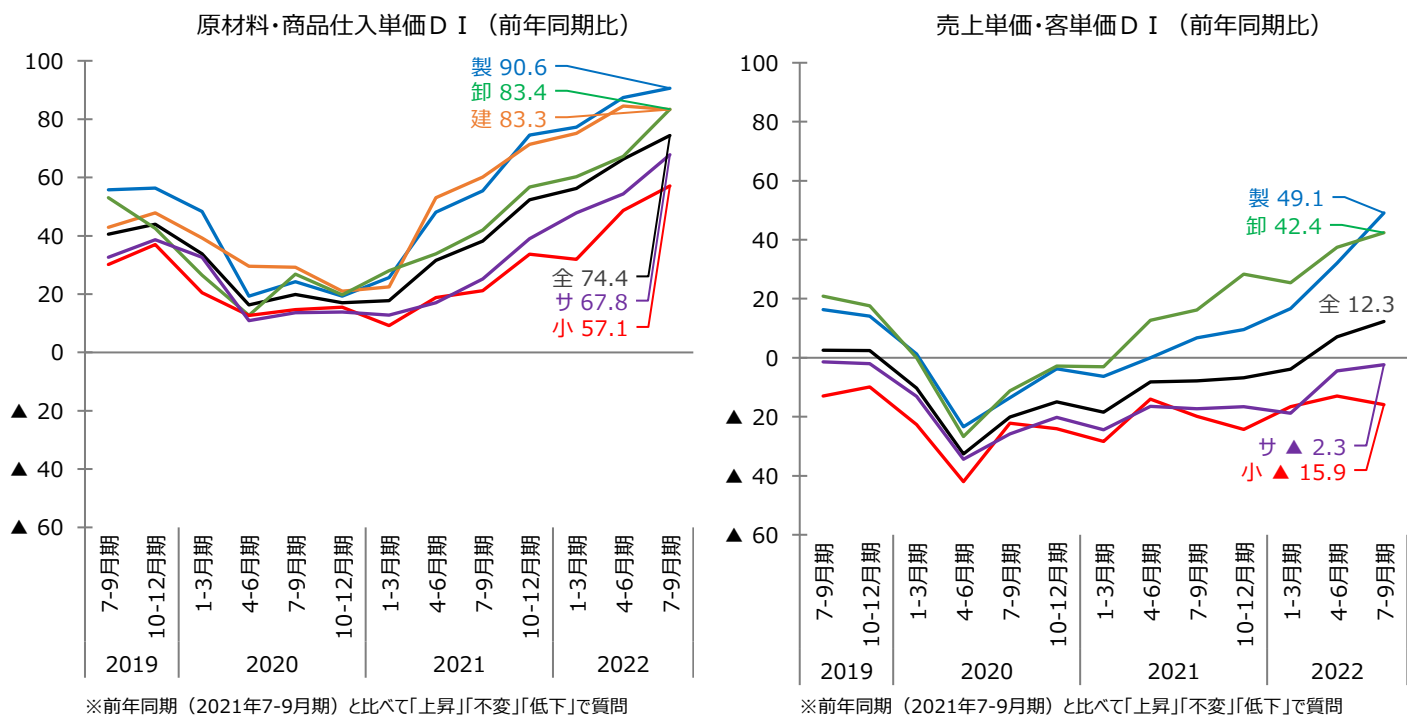
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年4-6月期）より2.8ポイント増の▲25.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より8.1ポイント増の74.4と7期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.2ポイント増の12.3と6期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、サービス業で上昇し、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2022年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

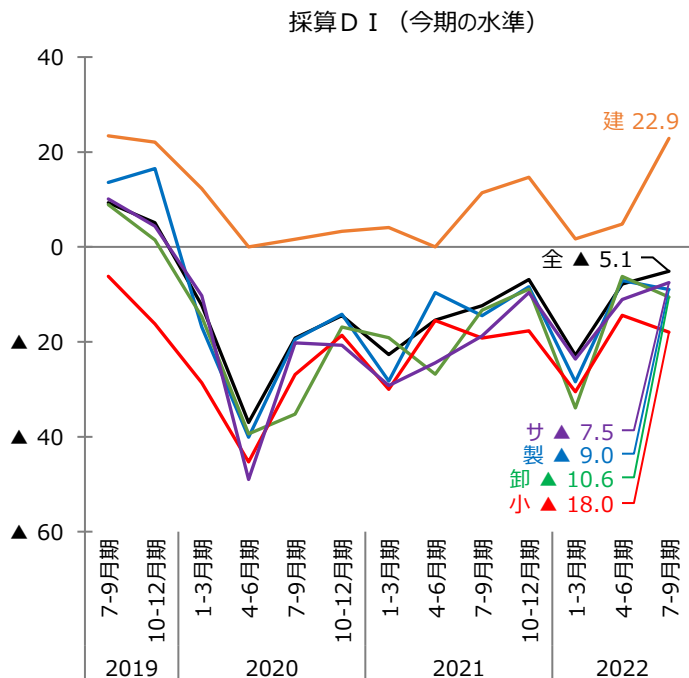
今期の調査対象企業数：18,847 有効回答企業数：18,132 有効回答率：96.2% うち、北海道：734企業

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 北海道



3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.7ポイント増の▲5.1と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 北海道の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	昨年末からラムが暴騰し今年に入ると牛、豚、鶏、全ての原料が高騰、一部品薄。価格転嫁してなんとか対応しているが大手スーパー様などは値上げに1～2ヶ月かかるのでその間は低い利益を余儀なくされ、非常に厳しい。	製造業 水産缶詰・瓶詰製造業
	コロナ禍において、3年目の夏を迎えるわけだが、材料価格が今年すでに4回目の値上げになり、なかなか、設計価格に反映されないのが一番の問題である。全国的状況の為、今後の中長期的展望が立てられないのが現状。	建設業 一般管工事業
	商品のライフスタイル化が進んで、早い段階での購入が目立つ。前年に不足した商品や欲しかった機能の商品は高額でも売れている。	卸売業 靴・履物卸売業
	帰省やキャンプ客の客数の回復、新規納品先の獲得や近隣の飲食店の新規開業など、当地域の活性化に期待が高まるものの、仕入単価の上昇は続き、設備投資や光熱費などの負担は重く、実質的な好転には程遠い。	小売業 各種食料品小売業
	来店客や団体の予約は、徐々に回復が見られているものの、仕入等の価格高騰で、採算面は厳しく、原価を抑える工夫のほか、メニュー価格の改定を予定している。	サービス業 すし店
見通し	完成車台数の減少により、生産量は平年より15%程度ダウンしている。先行きもサプライチェーンの問題等で見通しは立てにくい。	製造業 自動車部品・附属品製造業
	世界経済はコロナに加えてウクライナ情勢等のリスクにより資機材の高騰、人材の不足等、先行きの不透明な状況が続いており、社員一人ひとりが健康に働ける職場環境を進めて持続可能な社会・環境づくりに貢献していく。	建設業 木造建築工事業
	客数が若干増加したが、客単価の低下により期待していたほどの上昇はなかった。この傾向は今後も続くと思われる。	小売業 調剤薬局
	コロナの影響が少しずつ薄れていく、来年にはコロナ前の状態に戻ると思うが、どのような対応が必要になるかは手探りの状態である。材料費の高騰もどようになるか、人件費の増加も社会全体として課題が多い。	サービス業 自動車一般整備業
	将来の売上増が見込めない。加えて資材高騰により利益が確保できない可能性が高い。	サービス業 測量業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

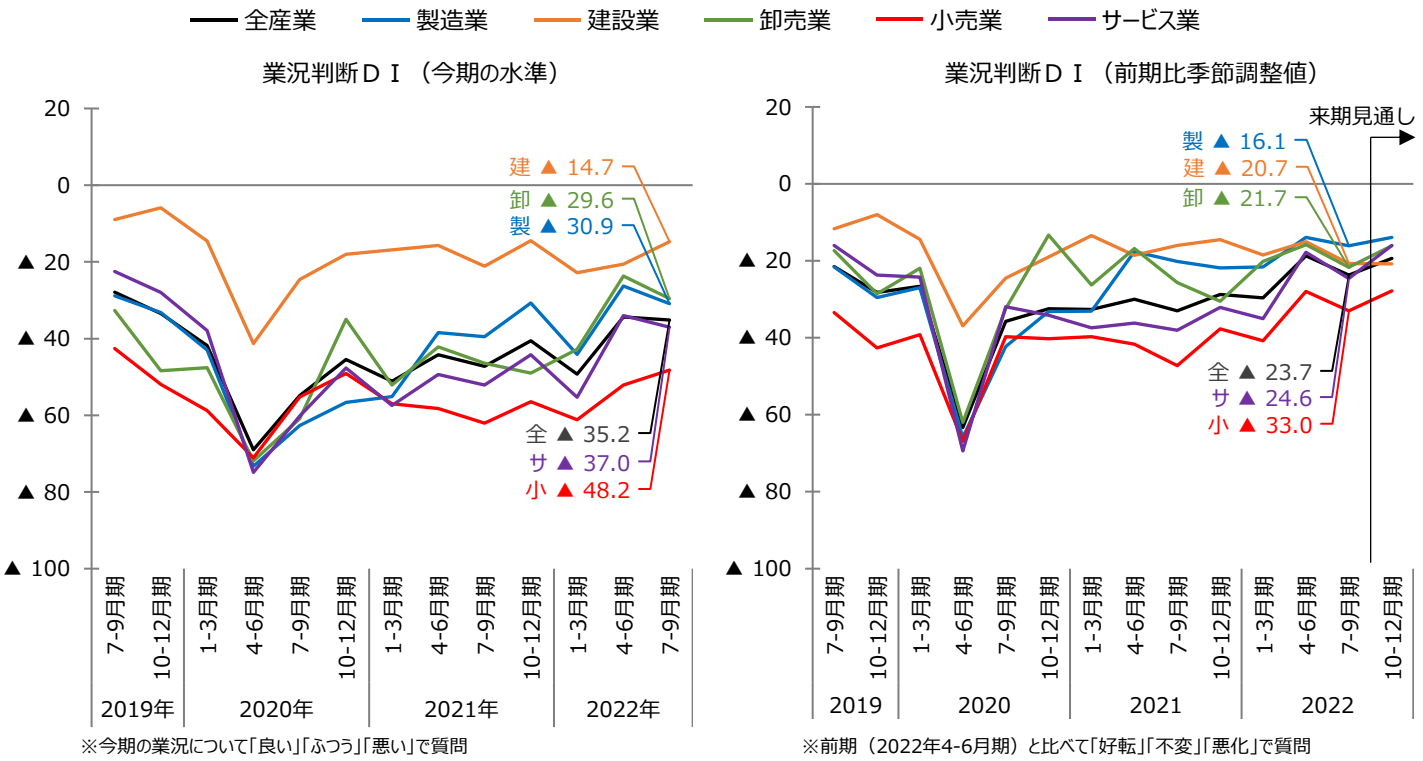
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 東北



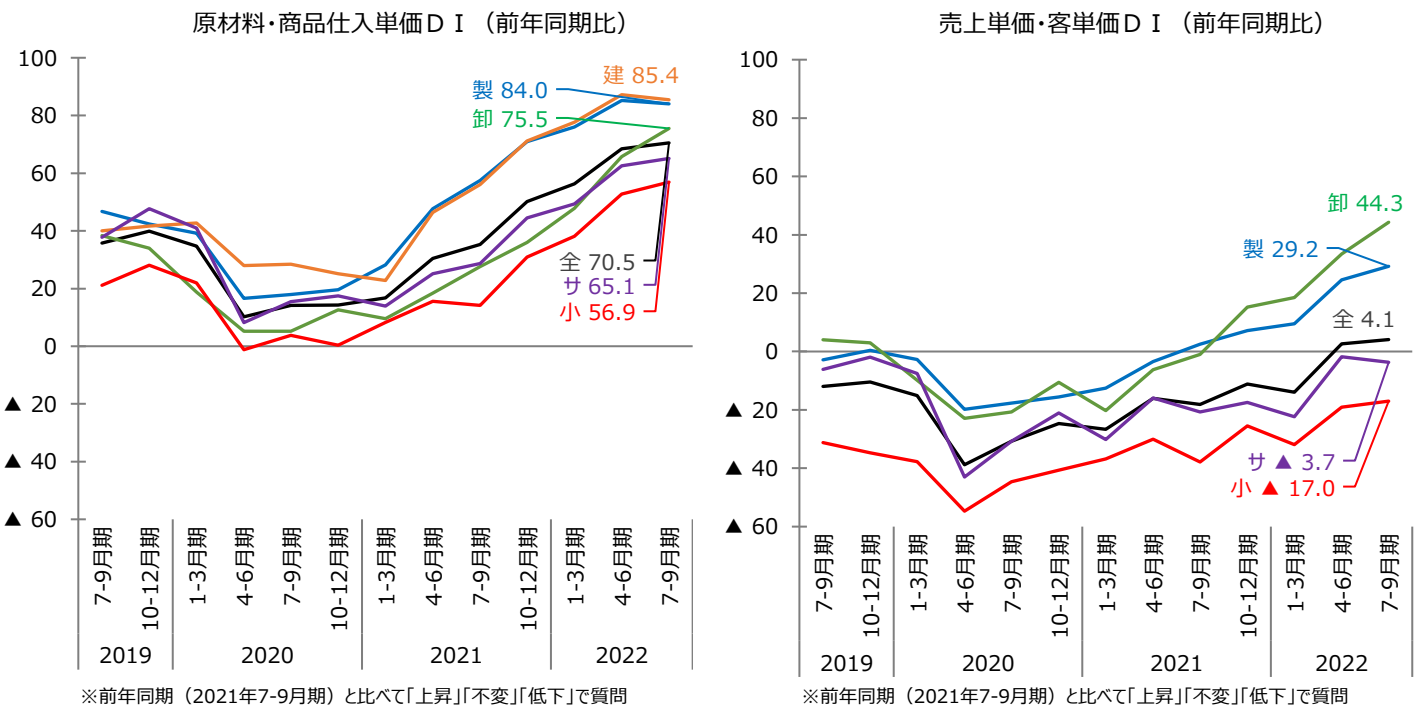
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年4-6月期）より0.8ポイント減の▲35.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、小売業で上昇し、卸売業、製造業、サービス業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.0ポイント増の70.5と9期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、サービス業で上昇し、建設業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の4.1と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2022年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

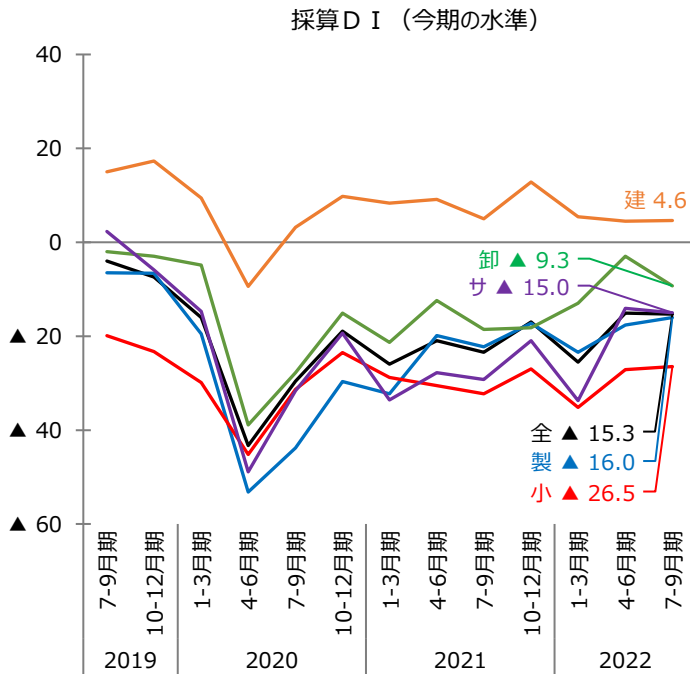
今期の調査対象企業数：18,847 有効回答企業数：18,132 有効回答率：96.2% うち、東北：1,877企業

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 東北



3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の▲15.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、小売業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	生産予定が入っていても部品調達が出来ない状況が続いているため、生産する事が不可能である	製造業 その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業
	技術者が少なく、人材の確保が難しくなっている。仕事は増えているのだが、こなせないで受けられない。材料費の上昇も止まらず、赤字になる事もある。	建設業 大工工事業(型枠大工工事業を除く)
	メーカーの仕入価格が上昇したが、販売価格への転嫁が中々難しいです。	卸売業 紙製品卸売業
	物価の増加により、消費が低迷している。お盆時期に大雨があったため、来店客が少なかった。7月末～8月中旬にかけて気温が低い日が多かったため、夏季の商品が残った。	小売業 茶類小売業
	仕入単価が上昇し、厳しい経営状況であることに変わりはない。また、コロナが流行し始めており、客足が遠のいたように感じる。	サービス業 理容業
見通し	春に用紙の価格、印刷関係の材料等の値上げがあり、印刷物に関する単価を少し上げさせてもらった。しかし、秋にも用紙関係の2回目の値上げ、さらには来春に3回目の値上げもとのうわさがある。価格に転嫁させるのも限界がある。	製造業 オフセット印刷業(紙に対するもの)
	材料価格の上昇と材料の入手難で工期が遅延になる恐れがあり、それに伴い資金繰りも悪化する可能性あり。	建設業 木造建築工事業
	仕入れ単価上昇を販売価格へ転嫁できず苦労している。需要が増えれば、価格競争が落ち着くと思われる。	卸売業 その他の建築材料卸売業
	夏前頃からコロナ感染人数が、爆発的に増え、それに伴い外出する人数が大幅に減り来客数も少なくなった様に感じる。これから秋にかけて感染人数も減り、外出する人も増えれば売り上げ上昇も期待できる。	小売業 靴小売業
	昨年に比べれば良くなっているが、コロナ禍前から比較すると7割程度である。これから返済が始まるが、需要が回復していない状況では正直厳しい。	サービス業 旅館, ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

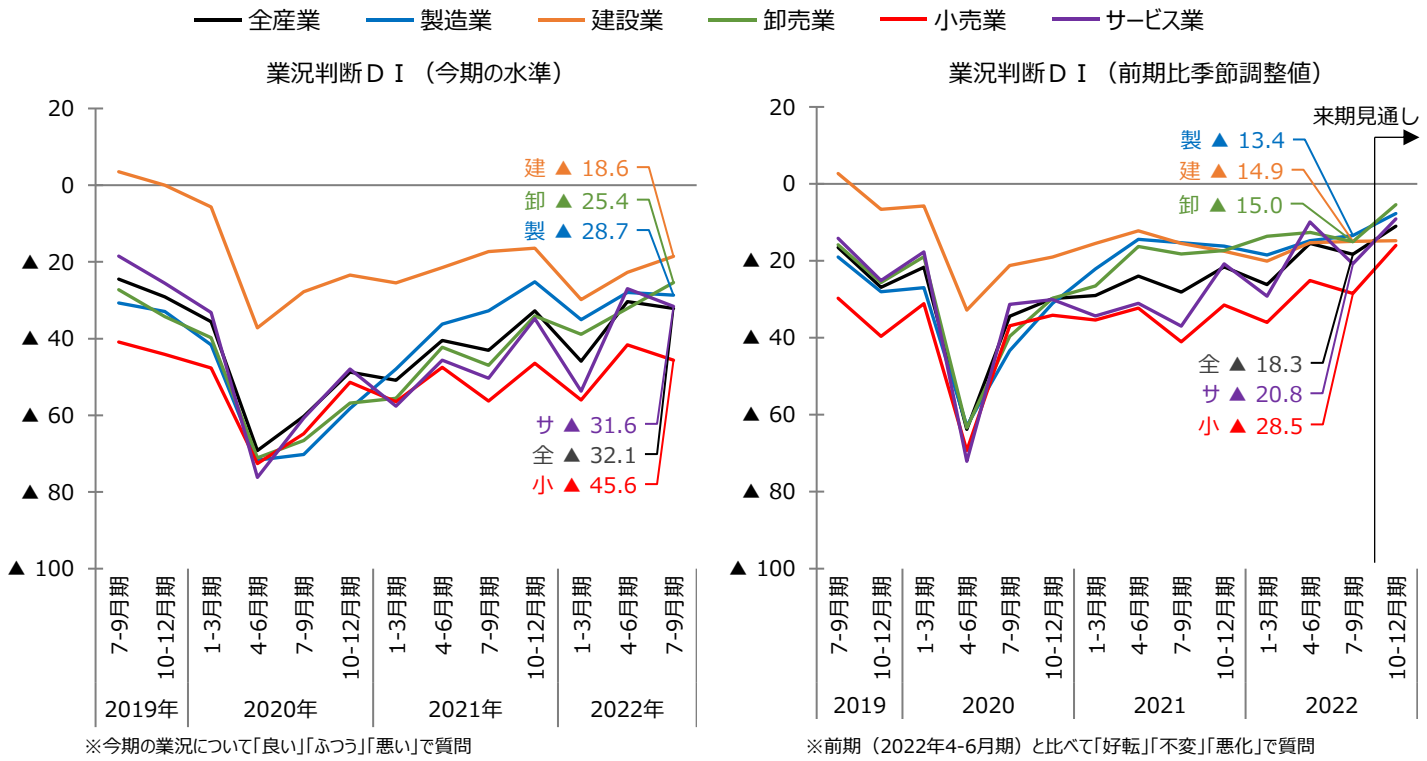
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 関東



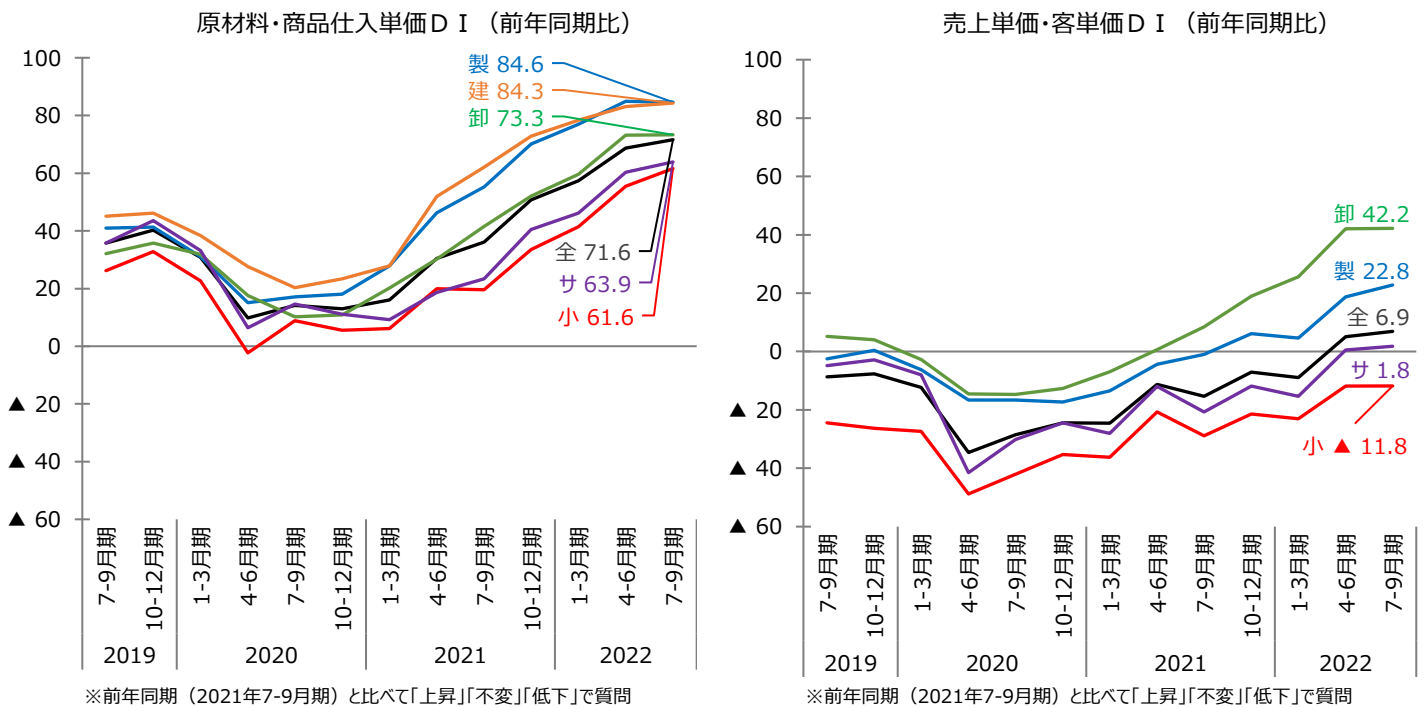
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年4-6月期）より1.7ポイント減の▲32.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、サービス業、小売業、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.9ポイント増の71.6と7期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、建設業、卸売業で上昇し、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.8ポイント増の6.9と2期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



＜調査概要＞ 調査時点は2022年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

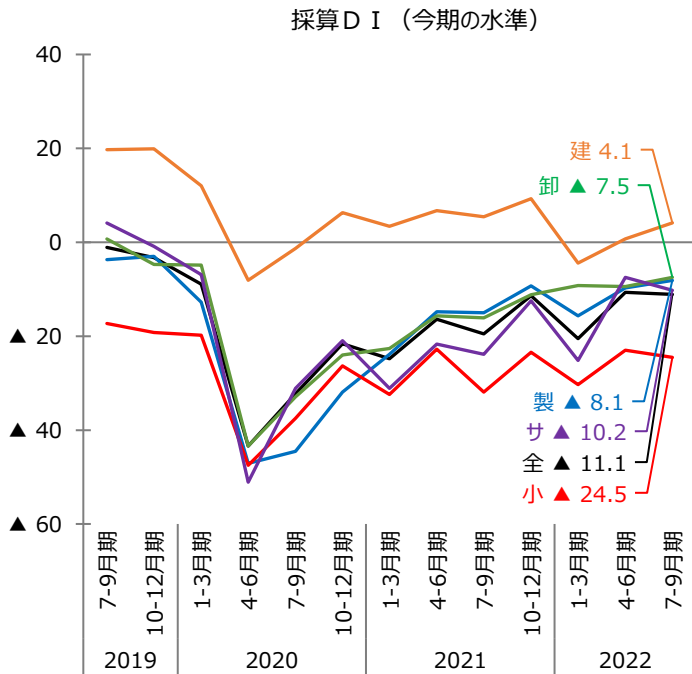
今期の調査対象企業数：18,847 有効回答企業数：18,132 有効回答率：96.2% うち、関東：4,922企業

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 関東



3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.4ポイント減の▲11.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



4. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	毎週のように、原材料の値上がりのお知らせが届いています。見積りをした時の材料の値段と注文後の材料の値段が大きく違う事がある為、収支トントンの事も多いです。注文後に材料を発注するので値上がりがあると苦しいです。	製造業 木製家具製造業（漆塗りを除く）
	木材等は以前より入手しやすくなったが、価格は上がったまま値下がりせず、最近は釘・金物類もどんどん値上がりをしていて、かと言って請負単価も容易には値上げできず、苦しいところ。	建設業 大工工事業（型枠大工工事業を除く）
	建築資材の値上がりによるものなのか需要が非常に停滞している。ガソリン代の値上げ等も経費の増加につながり経営を圧迫していると思われる。	卸売業 木材・竹材卸売業
	お祭り等も久しぶりに開催されはじめ、行動制限もゆるやかになってきており、おでかけへの需要は始めている。しかし価格高騰による値上がりの影響も出始めており、単純な回復にはなっていない。	小売業 婦人服小売業
	仕入れ価格の上昇、円安によって利益幅がより小さくなっている。半導体不足の影響で在庫を通常より抱える必要性があり、リスクが増大。技術系の人材採用、特に即戦力の中途採用が困難な状態。	サービス業 受託開発ソフトウェア業
見通し	半導体関連装置を中心に受注が増加している。しかし電子部品の調達難は続いており、売上が計画どおりに計上できないケースが出ている。この状況は今年いっぱい続きそうである。	製造業 金属プレス製品製造業（アルミニウム・同合金を除く）
	材料価格の上昇が続いており、これからもますます上昇することが見込まれる。それにより材料の入手難となっている。また、材料費・人件費以外の経費も増加していて先行きに不安がある。	建設業 一般管工事業
	仕入単価の上昇により、粗利益の下押し局面は当面続く見通し。	卸売業 家具・建具卸売業
	9～10月にかけて主要家電の値上げがメーカーより言われており、その影響で販売価格を値上げせざるを得ない状況。販売価格の上昇により、需要が停滞することが懸念される。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	仕入価格や燃料費等の高騰により、経費の支出が増加しており、今後さらに増えると思われます。そうなった時に、最低賃金引き上げに伴う人件費の増加も含めて、料金の値上げをしなければなりません。	サービス業 そば・うどん店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

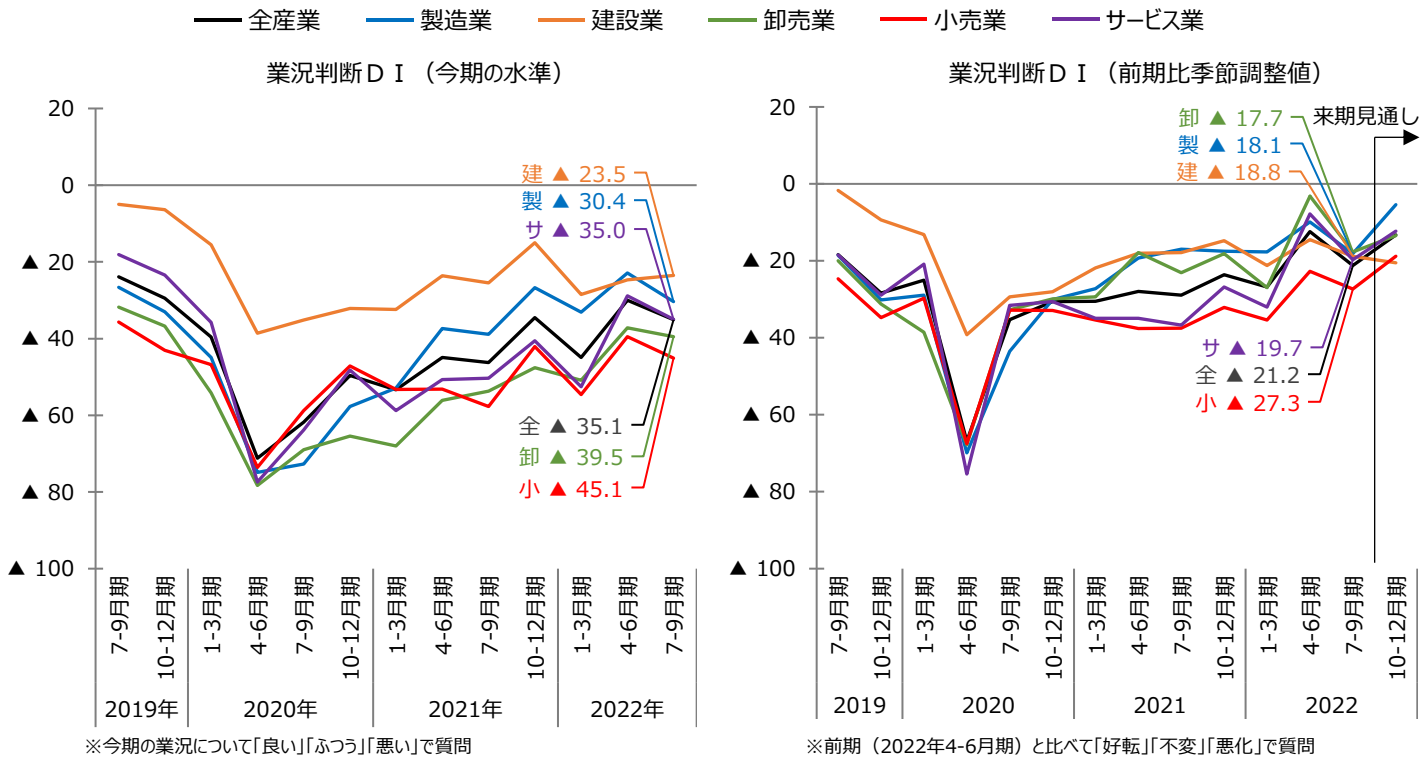
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 中部



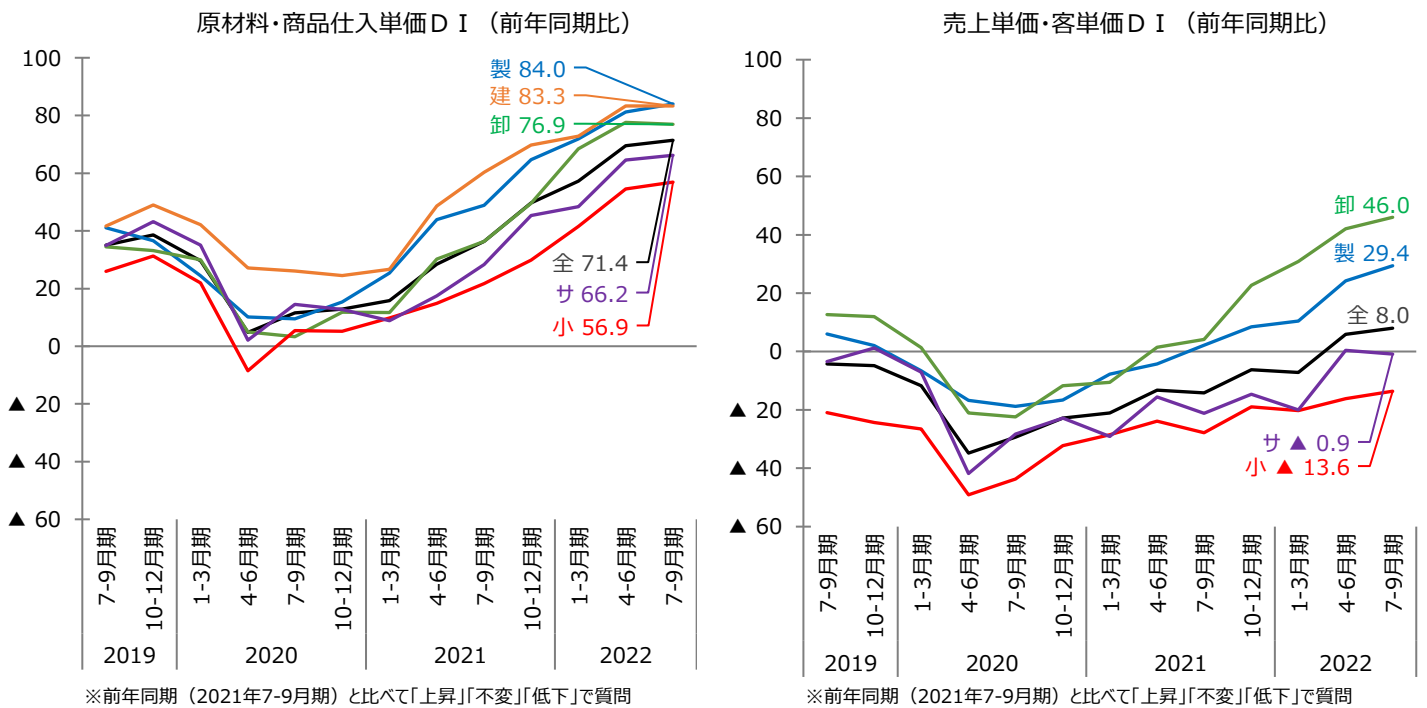
1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年4-6月期）より5.1ポイント減の▲35.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、製造業、サービス業、小売業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.9ポイント増の71.4と9期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、サービス業で上昇、建設業で横ばい、卸売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.1ポイント増の8.0と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、小売業で上昇、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2022年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

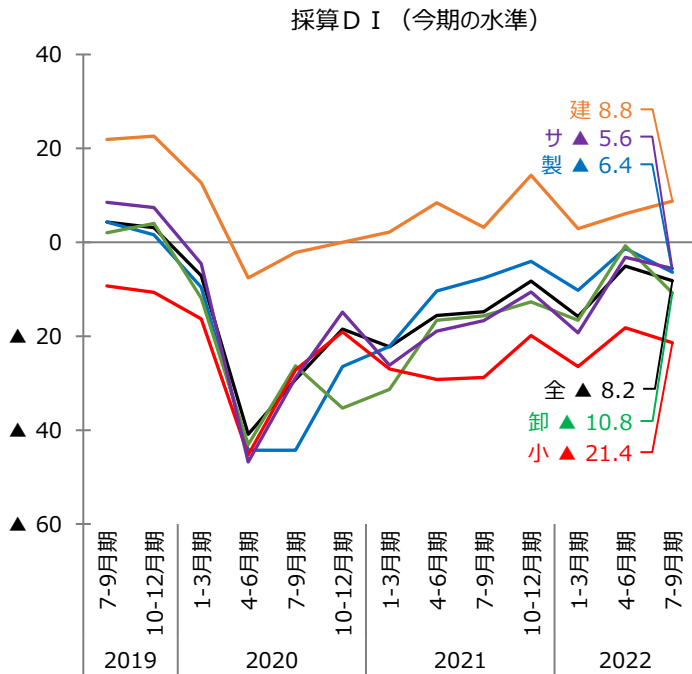
今期の調査対象企業数：18,847 有効回答企業数：18,132 有効回答率：96.2% うち、中部：2,311企業

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 中部



3. 採算

採算DIは、全産業で前期より3.1ポイント減の▲8.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、製造業、小売業、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	弊社受注は順調に推移しているが、コロナ等の影響により製造・保守に対応する際の部材の一部では、納期が長期化していることから在庫を多めに持つようになっているが、在庫過多または長期滞留とならないか懸念している。	製造業 自動車部品・附属品製造業
	家族のコロナ感染に続き、自身のコロナ感染などにより8月の売上は大幅に減少しました。仕事はきれずにありますが、利益の少ない仕事が多く業積としては悪化しています。材料価格の高騰も大きく影響しています。	建設業 一般電気工事業
	食用油をはじめとする取扱商品の価格上昇が続いている。仕入金額が上昇し、価格に転嫁することが難しい。	卸売業 砂糖・味そ・しょう油卸売業
	原材料の上昇が未だに落ちついていない為、商品価格の決定が困難。さまざまな商品やサービスの値段が上がっているのをお客様のニーズの変化を正確に捉えなくてはならない。	小売業 パン小売業（製造小売）
	近場の利用者は、県民割等のキャンペーンも有ってそれなりの需要を確保できているが、大都市圏、特に、東京、大阪方面の需要は弱い。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	今期の受注金額については一定水準を保ち安定して推移しています。但し、原材料価格上昇や品不足が収益を圧迫しています。その為、今後の見通しについては、やや不安を感じています。	製造業 物流運搬設備製造業
	材料費、外注費の上昇により、原価の上昇が見込まれるため、価格の転嫁が課題と成ります。下請さんや、従業員の確保も課題です。	建設業 木造建築工事業
	第一四半期は好転して来たが、第二四半期は国内のコロナ拡大により販売に再度ブレーキがかかって来た。輸出の好転が見られるが、為替の動向やウクライナ情勢により急変する事が考えられ見通しは難しい。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	商品の値上げにより顧客の買い控え及びローコスト商品への移行が危惧されます。専門店の顧客は高齢者も多く、過去からの信頼関係で販売していますが、量販店との値差が広がれば苦戦を強いられる恐れがある。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	3年ぶりに、行動制限がなく期待していたが、第七波の影響は大きくキャンセルが続き伸び悩みの状況だった。国際情勢の悪化に伴い、材料等の仕入単価の上昇で、今後の先行きが不安である。	サービス業 焼肉店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

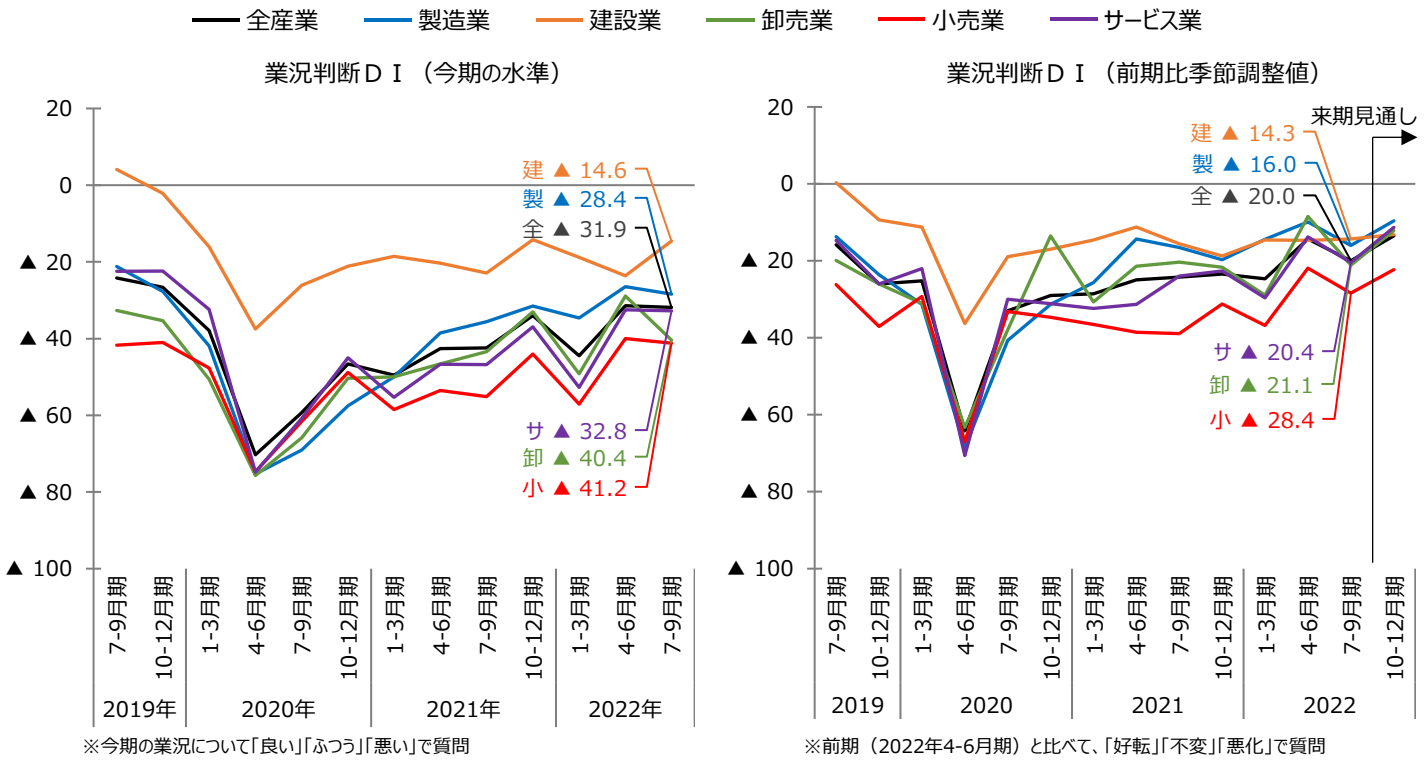
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 近畿



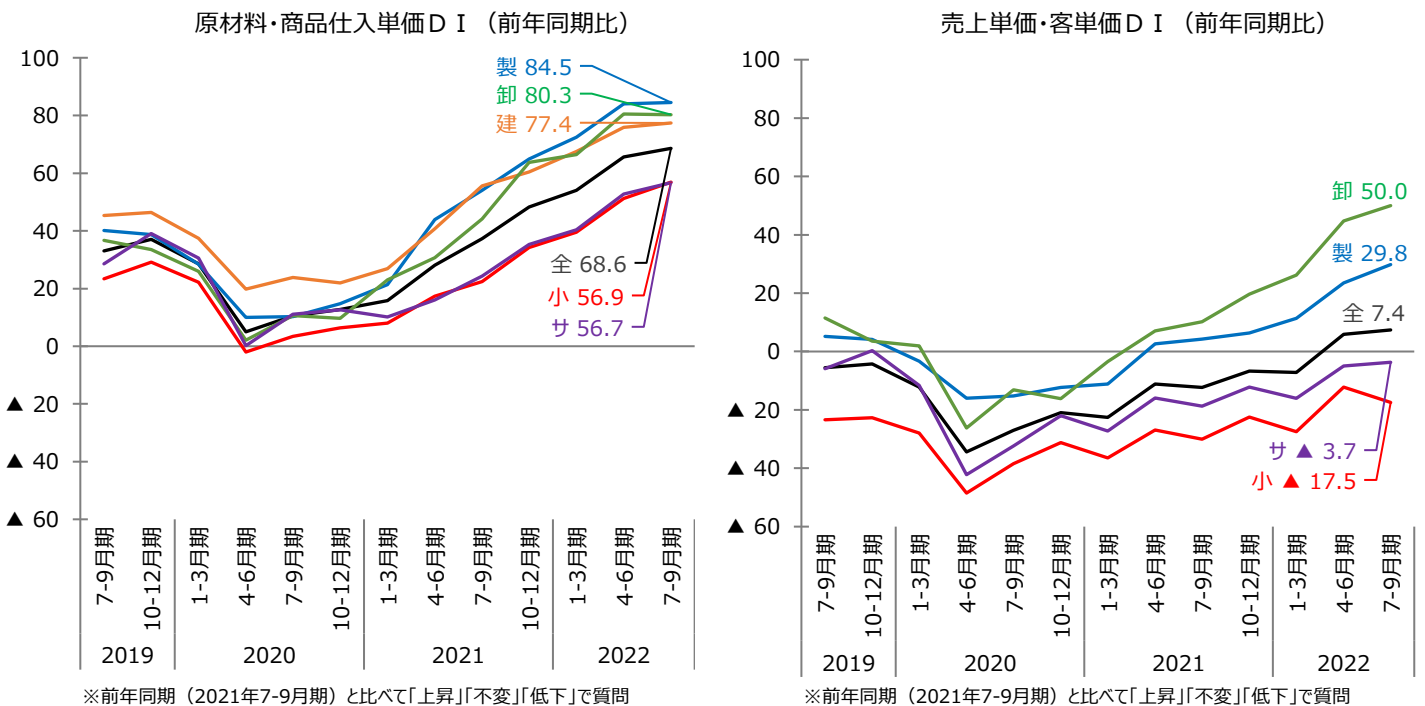
1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年4-6月期）より0.5ポイント減の▲31.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、製造業、小売業、サービス業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.0ポイント増の68.6と9期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、建設業、製造業で上昇し、卸売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の7.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、サービス業で上昇し、小売業で低下した。



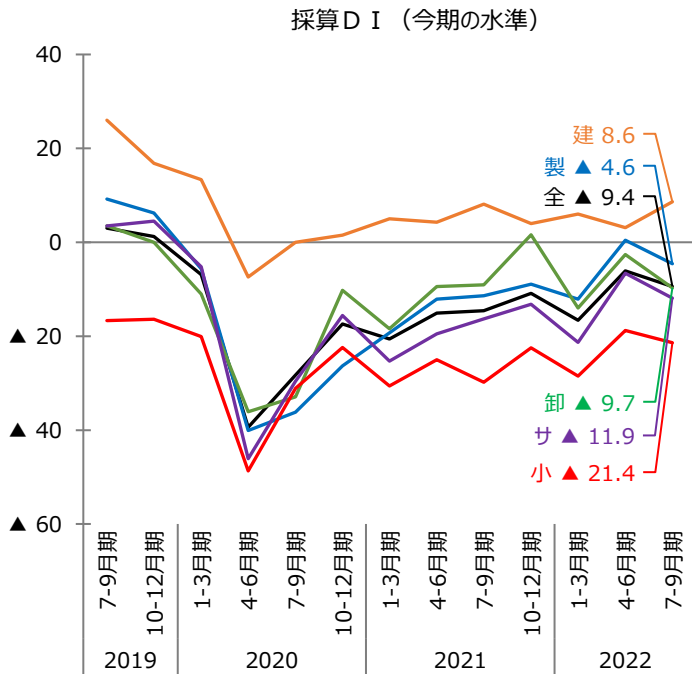
<調査概要> 調査時点は2022年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,847 有効回答企業数：18,132 有効回答率：96.2% うち、近畿：2,571企業

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 近畿

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より3.3ポイント減の▲9.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業、小売業で低下した。



4. 近畿の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	業況の悪化要因は自動車部品の大幅な減産で、特に中国向けロックダウンによる影響が大きい。自動車部品以外については、比較的好調と言える。建設機械部品や汎用エンジン部品関連が良い。	製造業 <small>金属工作機械用・金属加工機械用部分品・附属品 製造業（機械工具、金型を除く）</small>
	現況は家庭用各種給湯器等、未だに納期遅延、入手困難です。ベトナム、マレーシア、中国等の世界的な電子部品（耐熱電線）の供給不足で、温水洗浄便座にも影響が出ています。	建設業 給排水・衛生設備工事業
	原料の高騰、輸入経費の高止まり、急激な円安で、仕入コストが急激に上昇、販売単価への転嫁が追いつかず採算が取れない。幅広い分野で値上がりが起こっており、家計負担も大きく、消費低迷が懸念される。	卸売業 その他の身の回り品卸売業
	前年はコロナの巣ごもり需要の中で、思っている以上に売上が伸びたが、今年はコロナが落ちつき、消費者の選択肢が増えたために需要が減ったのではないかと感じている。平年並に戻ったというところ。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	軽油のみならず、タイヤから従業員の作業服に至るあらゆる物が値上がりし、経費の増加が経営を圧迫している。荷主側も厳しい状況にあるので、運賃交渉もままならない。	サービス業 <small>一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）</small>
見通し	半導体の不足が長期間影響しており、この状況はさらに続くと思われる。中国の節電による影響も懸念しており、生産環境が安定しない状況によるマイナス要因が今後も重くのしかかると感じています。	製造業 金属製品塗装業
	4月頃に材料価格の値上げがあり、又、10月に材料価格の値上げがあります。値上げ幅に見合う請負価格の上昇があるが今後が心配である。	建設業 石工工事業
	円安と原油高にともなう仕入単価上昇が経営を圧迫しております。売上高は計画通りに達成している中で、販売価格への転嫁が急務となっております。	卸売業 その他の各種商品卸売業
	仕入単価の上昇が続く中、販売単価に転嫁をしているが売上がまいち伸びないのは、市場が冷えこんできているのかと思います。新築着工件数も減少しているようなので、来期も厳しくなりそうです。	小売業 建築材料小売業
	地域と業種の特性上、今期の業況は良かったが、来期の見通しは現在のところ不透明である。ただ、付加価値を高める投資を行って、更なる単価上昇を早期に画策する必要はある。	サービス業 旅館、ホテル

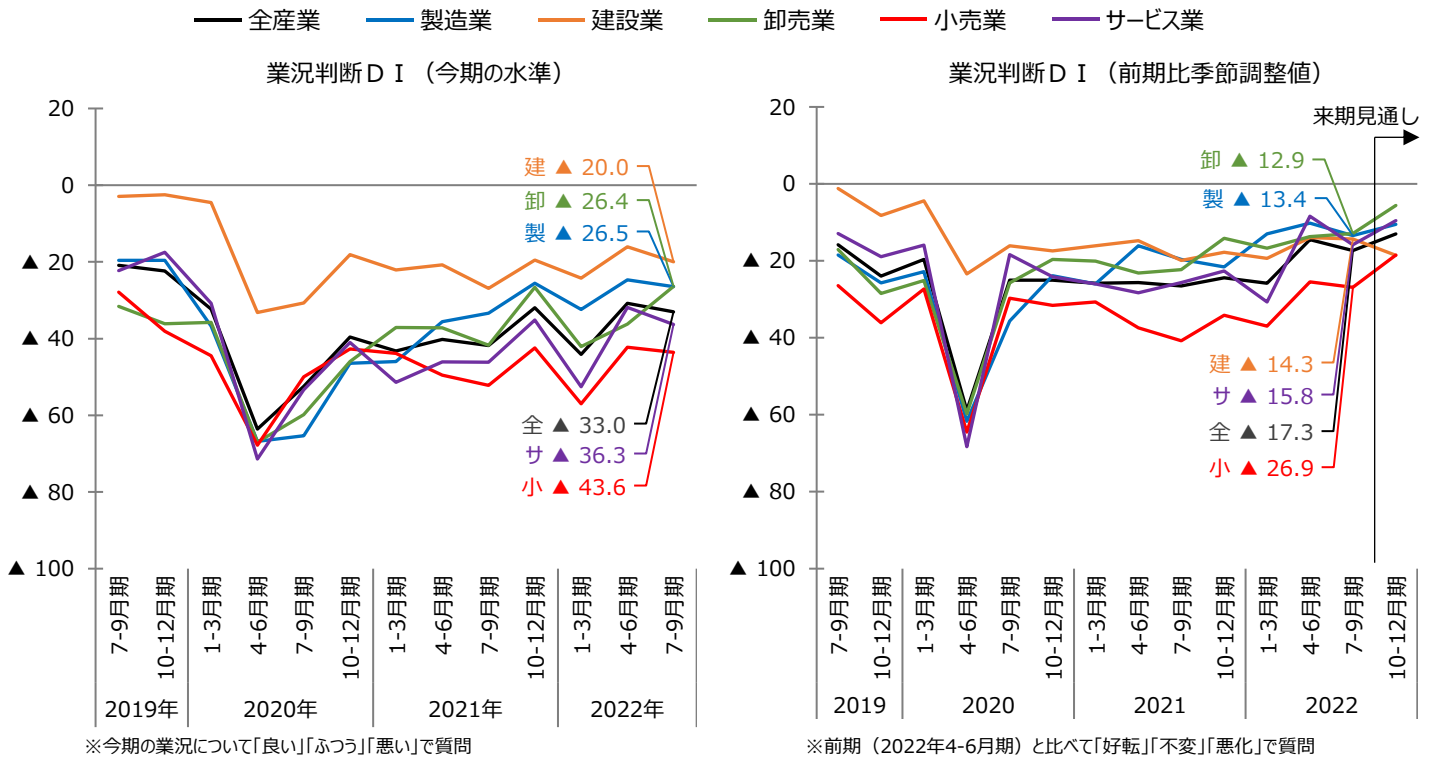
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 中国

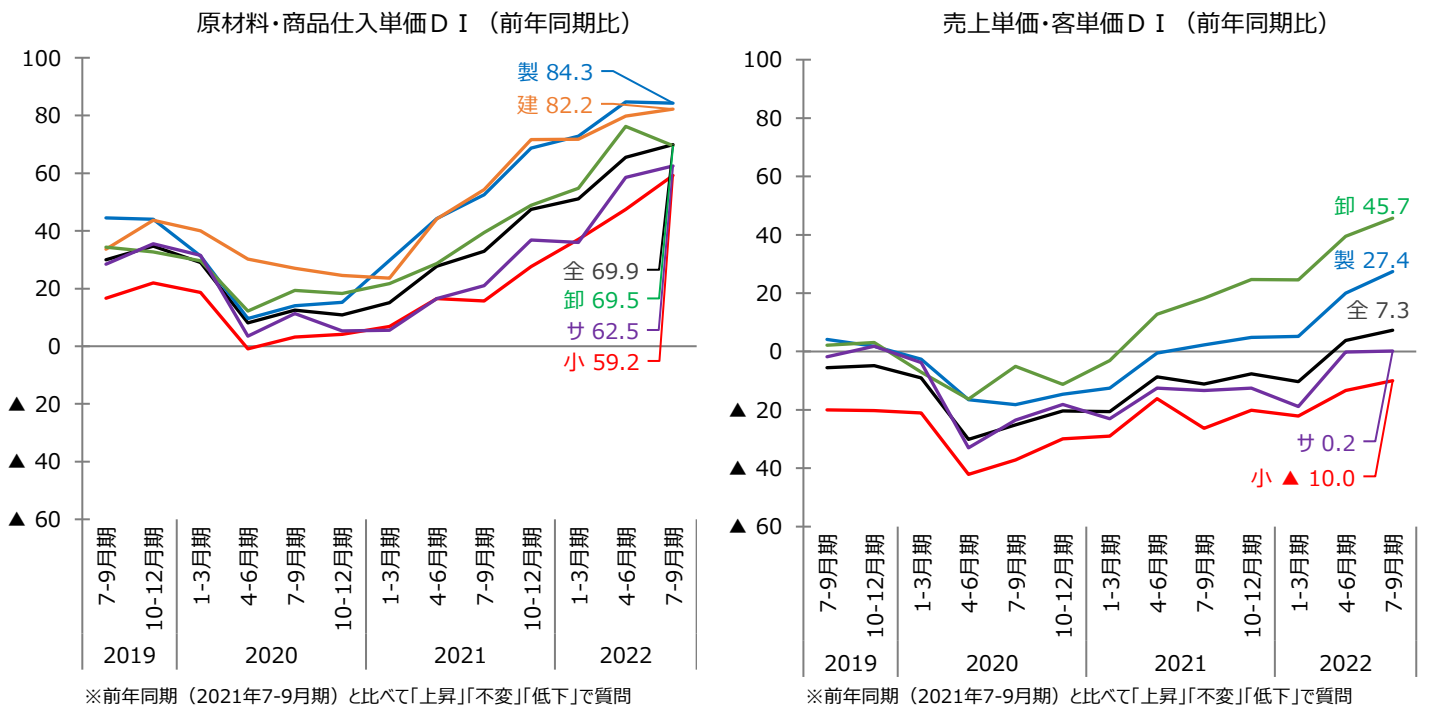
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年4-6月期）より2.2ポイント減の▲33.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業、建設業、製造業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.4ポイント増の69.9と7期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、建設業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.5ポイント増の7.3と2期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



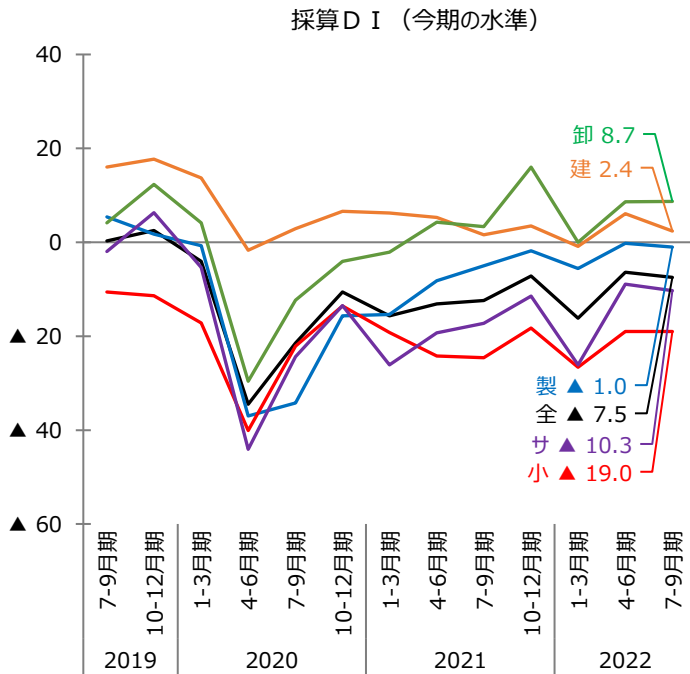
＜調査概要＞ 調査時点は2022年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,847 有効回答企業数：18,132 有効回答率：96.2% うち、中国：1,692企業

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 中国

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.1ポイント減の▲7.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業で横ばい、建設業、サービス業、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 中国の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	昨年と比べると幾分回復してきているが、コロナは終息しておらず厳しい状況。特に原材料、光熱費の高騰が経営に大きな影響を及ぼしている。業界全体の市場規模縮小も加速している感じがする。	製造業 オフセット印刷業(紙に対するもの)
	材料価格の上昇が続いており、価格転嫁を余儀なくされておりますが、お客様からは反映をしづられたりするケースがあり苦労しております。	建設業 一般電気工事業
	F A 事業は製造業の設備投資増加により受注規模は堅調に推移しているが、依然として納期遅延が継続しており、新たな引き合いに影響している。空調事業は猛暑による受注増と大型案件により、売上は前年比で増加している。	卸売業 電気機械器具卸売業(家庭用電気機械器具を除く)
	今夏は、コロナ禍による行動制限は無かったものの、感染者が拡大し、祭りやイベントの縮小・中止で売上が伸び悩む。このところの物価上昇が需要の停滞に影響しそう。	小売業 酒小売業
	原材料費の上昇、最低賃金アップなど、経営環境は更に厳しくなっている。一方、消費意欲の低迷は顕著であり経営計画の見直しも必要となるかもしれない。	サービス業 自動車一般整備業
見通し	前期に続き、さらに原材料の高騰ならびに原材料不足が続いている。また需要も回復基調ではなく、業況の悪化、売上低下が続いており、収益性も悪化している。改善の兆しもみえず、当面はこの状況が続くと考えます。	製造業 木製家具製造業(漆塗りを除く)
	半導体不足で商品が入荷しないなど契約工期どおりには現場が完成しない。価格は今後どんどん上昇の様子であり、この先が不明で業績も予想し難い。	建設業 給排水・衛生設備工事業
	市場の設備投資増加の見通しを受け、引合い、受注共に順調に伸びている。一方で物不足による製品、部品等の供給不足と物価高騰が利益の伸びに与える影響が懸念される。	卸売業 電気機械器具卸売業(家庭用電気機械器具を除く)
	コロナ禍、ウクライナ情勢等の影響で仕入れ価格の値上げ、又ガソリン等の燃料費の値上がりにて、経費の支出が増えている。人の移動もコロナ禍以前には戻っていないので、今年いっぱい改善する見込みはないと思う。	小売業 自動車部分品・附属品小売業
	コロナも3年目に入っているが、未だ先が見通せず厳しい状況に変わりがない。それに追いつけかけないように電気料金や燃料費が想定以上に高騰、コロナ収束後も維持経費の負担増により旅館経営はより厳しさを増す。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

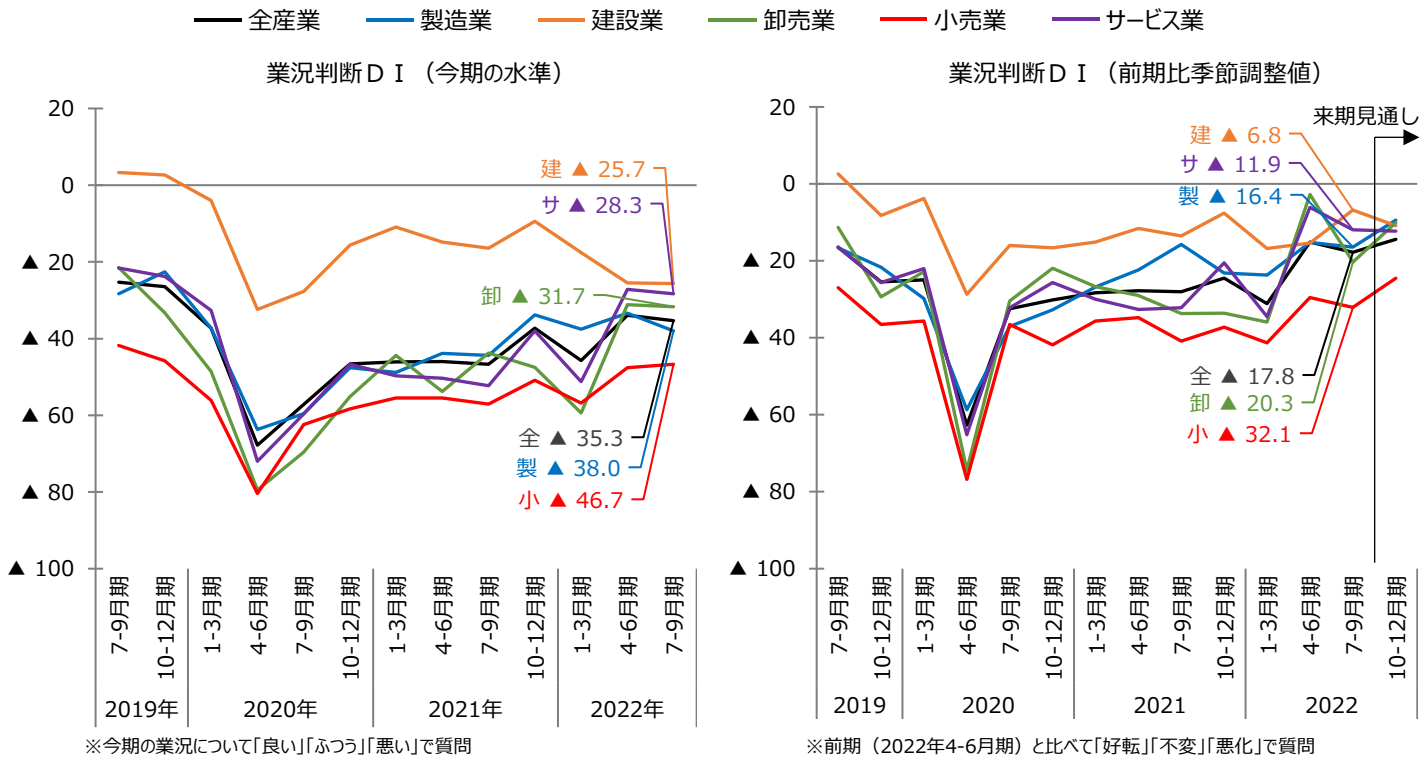
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 四国



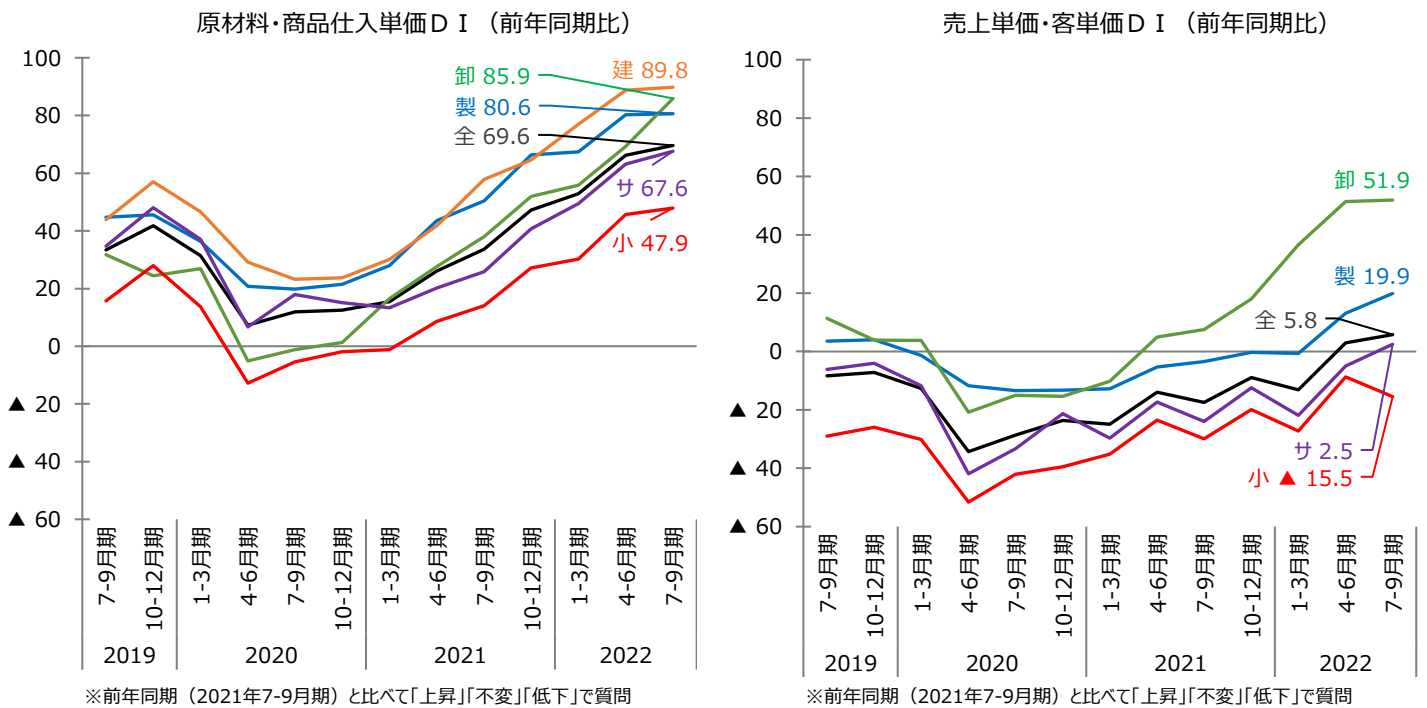
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年4-6月期）より1.4ポイント減の▲35.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、製造業、サービス業、卸売業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.4ポイント増の69.6と9期連続して上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.8ポイント増の5.8と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、小売業で低下した。



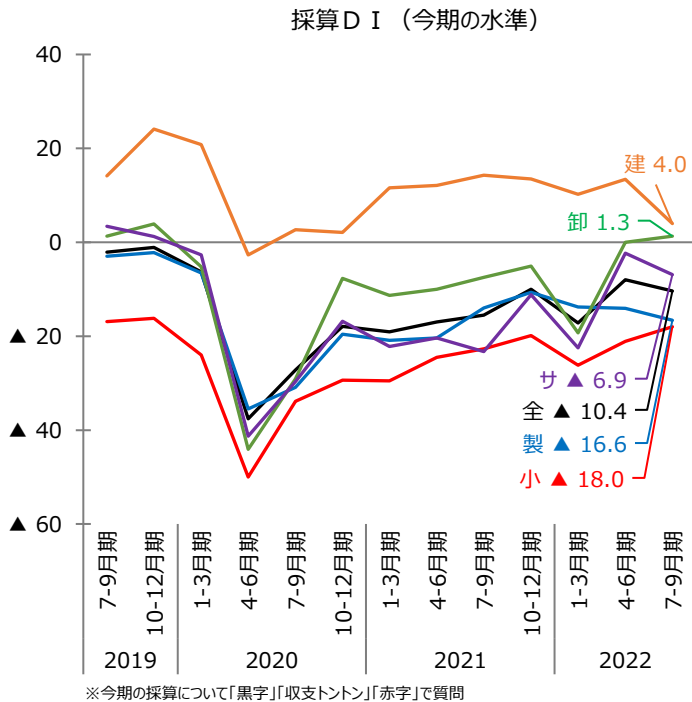
<調査概要> 調査時点は2022年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,847 有効回答企業数：18,132 有効回答率：96.2% うち、四国：1,277企業

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 四国

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の▲10.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業、卸売業で上昇し、建設業、サービス業、製造業で低下した。



4. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	原材料が不足しており、納期末定の材料が増えてきた。お客様からの注文があっても対応出来ない事もあるし、注文も減ってきている。現状がいつまで続くかわからないのがすごく不安である。	製造業 他に分類されないプラスチック製品加工業
	材料単価の上昇が止まらないため、見積書から契約に至るまでに金額の変更が必要なケースが増加している。施主との価格交渉の末、折衷金額での契約が増加し利益率が悪化している。	建設業 一般土木建築工事業
	今春に続いて、今年2度目の値上がりが秋にある予定。一年に2度の値上がりは紙業界の過去に例がなく、ますますペーパーレスに拍車がかかることが予想される。	卸売業 紙製品卸売業
	コロナプラスの物価高で仕入単価上昇のうえ、高温のため植物の成長が悪く品薄で、思う商品が仕入れにくい。	小売業 花・植木小売業
	主な取扱品が書籍、雑貨であり、大きな売上の変動はないものの、消費の低迷などにより若干ダウン気味である。一方、経費としての軽油代が高値安定しており、収益の圧迫要因となっている。	サービス業 一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）
見通し	半導体不足でメーカーが原材料を調達できず、製品を製造できない状況が2年以上続いている。半導体供給回復までに数年見込んでおり、今後の生産体制に不安がある。	製造業 自動車部品・附属品製造業
	材料は値上りはある程度落ち着いたが、入手に時間がかかるものが出てきている。そのために工期および工事代金の入金にも影響をおよぼすケースがある。今後の資金繰りに注意しなくてはならない。	建設業 鉄骨工事業
	全体的なコストアップを売価に十分転嫁できる状況ではない。コロナ感染拡大にて外食業は需要の停滞が大きく、このまま続いていくと、事業縮小を検討する必要もある。	卸売業 その他の食料・飲料卸売業
	需要が停滞している中で、仕入単価の上昇や各種経費の上昇があらゆる部分で影響を及ぼして来ており、今後の収益確保が厳しくなってくるように感じる。	小売業 ガソリンスタンド
	7月までは前年を上回る形で推移していたが、8月に入り、感染者が増えたことで一気に見通しが悪くなっている。秋以降の仕事の入り方も弱くなっている。従業員確保も難しくなっており、苦難が続いている状況である。	サービス業 旅行業（旅行者代理業を除く）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

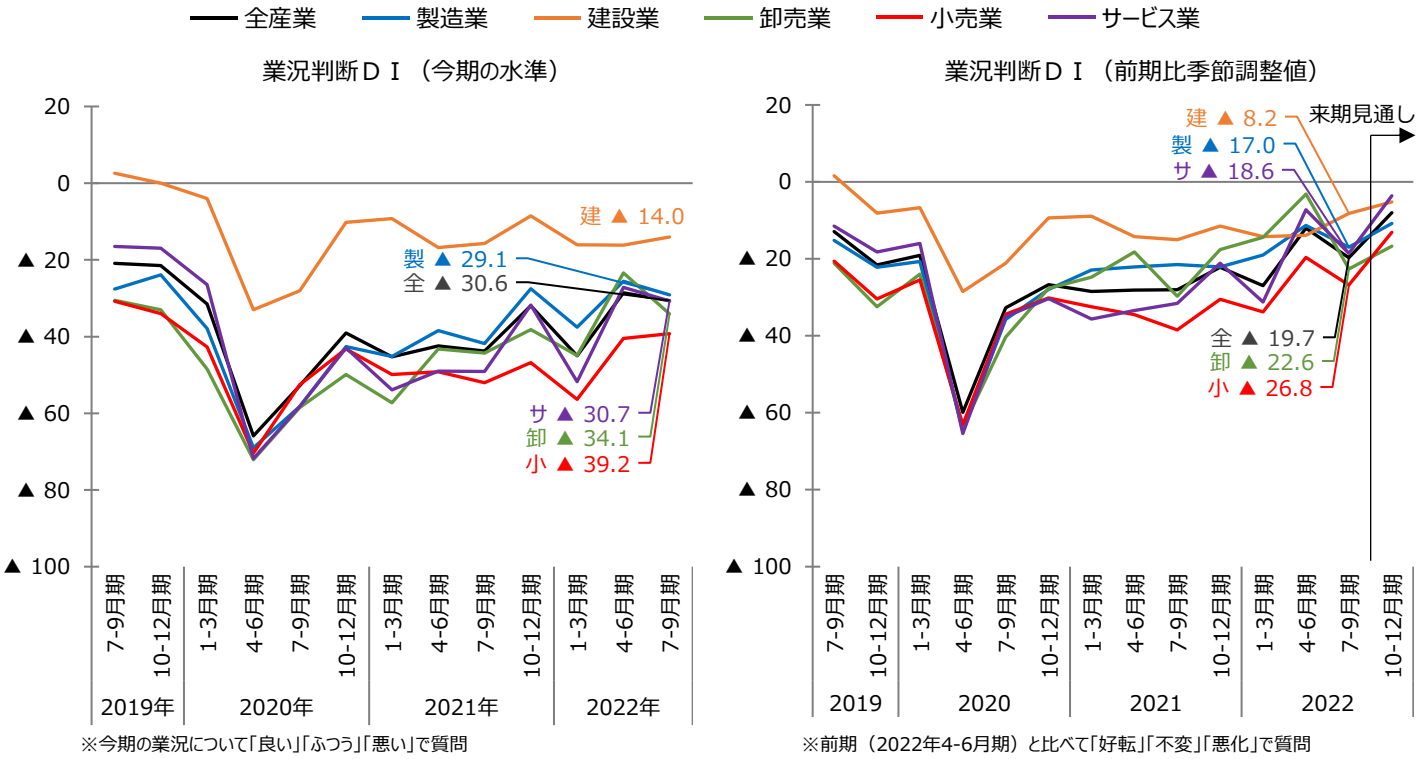
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第169回 中小企業景況調査（2022年7-9月期） 九州・沖縄



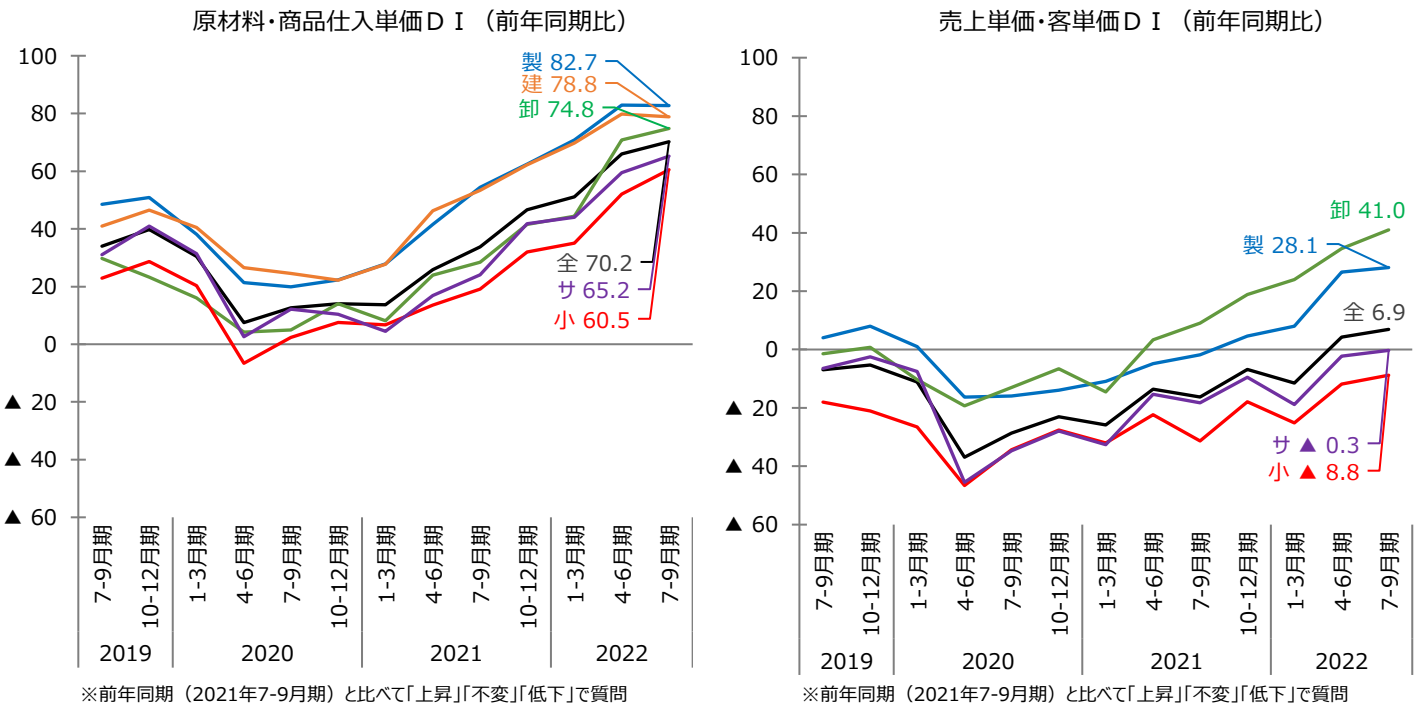
1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年4-6月期）より2.0ポイント減の▲30.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、小売業で上昇し、卸売業、製造業、サービス業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.2ポイント増の70.2と6期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、卸売業で上昇し、建設業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.6ポイント増の6.9と2期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。

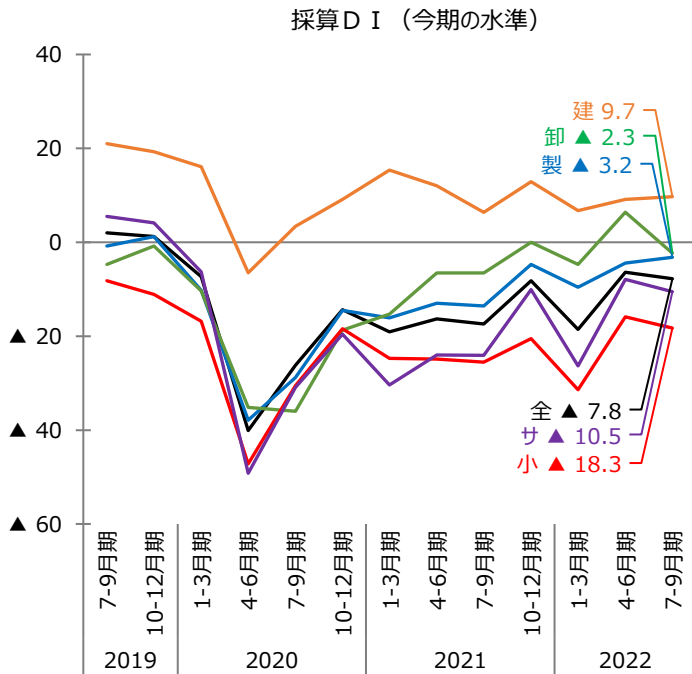


<調査概要> 調査時点は2022年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,847 有効回答企業数：18,132 有効回答率：96.2% うち、九州・沖縄：2,748企業

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の▲7.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	業務用冷蔵庫向け部品の生産が、資材の調達難により落ち込んでいる。他の業種でカバーし売上げは確保出来ているが、原材料費の高騰と消耗品価格の上昇により収益を圧迫している。	製造業 高炉によらない製鉄業
	材料価格の上昇、品不足による納期の長期化が大きな問題であるが、施主の理解が得られないことも度々あり、工期の延長や工事の追加を考慮してもらえず、厳しい状況が続くと思われる。	建設業 一般電気工事業
	米穀については、精米の売上が低調なうえ、古米の在庫消化が課題。消費者が県産米に固執しない安価な米を求めている。一般食品については、仕入単価の上昇が相次いでおり、売価の値上げ交渉に苦慮している。	卸売業 米麦卸売業
	仕入価格の上昇が特に響いています。そして、ガソリン等の価格の高止まりが配達中心の当店においては痛いです。商品のあらゆる価格が順次値上がりしているため、利益が少なく、資金繰りが大変です。	小売業 各種食料品小売業
	食品や光熱費など相次ぐ値上がりによって業況が好転しない状況である。観光などが戻りつつあり、収入の見込みがあるが、単価としては上がらない状況に困っている。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	原材料仕入価格やエネルギー関連（重油・電力等）費用の上昇に加え、最低賃金の引上げを控え、あらゆる費用UPが損益悪化の要因として、今後の見通しは良くない。	製造業 野菜漬物製造業（缶詰、瓶詰、つぼ詰を除く）
	材料費に続き、消耗品費や光熱費も値上がりしてきました。今後仕事の受注はしておりますが、採算にどの程度影響するか心配です。	建設業 鉄骨工事業
	長期間のコロナ禍を経て、自社流通も様変わりし、既存の顧客（特に地方）が減り、展示会やウェブ商談等で新規顧客が増えたことで利益率の改善に寄与した。ただ、今夏に20%に及ぶ値上がりがあり、秋以降の商戦が不安。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	10月ぐらいいろ、コロナの影響およびウクライナ危機によるコスト上昇が継続しているため、仕入価格の値上げが始まる。売価を値上げすると、必ず顧客が離れてしまうため、今年後期の売上げは下がると思われる。	小売業 牛乳小売業
	仕入単価の上昇は打撃であるが、旅行客の多い時期であること、提供価格を若干値上げしたことで何とか凌いでいる。しかし今後も仕入高アップは続くようなので秋にかけては状況は悪化するであろう。	サービス業 他に分類されないその他の飲食店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。